

野遊び塾

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

ネット依存や不登校などの課題を抱える青少年とその保護者を対象に、農作業や野遊び等の体験を通して、親と子のかかわり方について考える機会を提供します。参加した児童・生徒の社会的自立へつなげていくことを目的とする。

○ 実施期間

第1回 平成30年7月14日(土)～7月15日(日)

第2回 平成30年11月3日(土)～11月4日(日)

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

学校に行きたくても行けない児童・生徒及びその保護者

インターネット(SNS・ゲーム)に夢中になりすぎてしまう児童・生徒及びその保護者

第1回 3家族8名/10家族30名程度

第2回 5家族14名/10家族30名程度

○ 活動プログラム

7月14日〔土〕	7月15日〔日〕
11:30 はじまりの会・昼食	6:00 起床・身支度
12:45 釣り	7:00 朝食
14:30 自然の家へ移動	8:00 片づけ・掃除
15:00 ベッドメイク	9:15 基地づくり
15:30 山中先生の話	11:15 昼食づくり やきそば
17:00 カレーづくり・夕食	12:30 片づけ・アンケート
19:00 たき火トーク	13:00 終了・解散
20:00 入浴・自由時間	
21:00 就寝	

11月3日〔土〕	11月4日〔日〕
11:30 集合・オリエンテーション	7:00 起床・部屋清掃
12:00 昼食(食堂)	8:15 朝食
13:00 第3集から歩いて移動 いもほり体験	9:00 基地づくり
14:00 終了・移動・ベッドメイク 落ち葉集め	11:00 昼食の準備
15:30 焼き芋づくり	12:00 いただきます
16:30 山中先生のお話し	12:30 ごちそうさま・片づけ
18:00 夕食	13:00 終わりの会・アンケート
ロープワーク・たき火	13:30 バス出発・解散
20:30 入浴・就寝	

2. 活動の様子

7月14日（土）＜1日目＞

【釣り】



1日目は、とろむの港内で釣りをを行った。エサ付けから、釣った魚を針から外すところまで自分で行ってもらった。難しいところや失敗したときは、親子で協力し、楽しく活動している姿が見られていた。夕食を食べた後は、たき火を囲んで活動を振り返った。初めてしたことや、お手伝いしたことなどを楽しそうに話していた。夜は、いつもゲームしている子供たちは、空を見上げて、「あの星はなに？」と夜空を興味深く眺めていた。

7月15日（日）＜2日目＞

【基地づくり】



2日目は、森の中で、ロープやのこぎりを使い、自分達の遊び場を作る「基地づくり遊び」を行った。木を切るにしても、木に結び付けるにしても、親子で協力しないとできないため、声を掛け合い、意思疎通を図りながら楽しむ姿が見られた。作り終えたあとは、家族間でお互いに作った作品を鑑賞したり、遊んだりした。昼食づくりでは、参加者同士が協力して調理から片づけまで進めていた。保護者が自分以外の子供に声をかける姿もあり、子供達は親以外の大人と関わる体験をしていた。

11月3日（土）＜1日目＞

【いもほり・焼き芋】



1日目は、歩いて畑に行き、さつまいもほり体験を行った。天候にも恵まれ、参加者は汗かきながら、たくさんのさつまいもを収穫した。汚れるのを躊躇することなく、膝をつき、土をかき分けていもを掘り起こしていた。地元の農家の人にお借りしている畑ということもあり、収穫後に、丁寧に後片付けをしていた。

また落ち葉を集めて、収穫したての芋で、焼き芋を作った。焦がしてしまうこともあったが、自分で収穫したこともあり、上手に焦げた皮を剥ぎながら残さず食べていた。また、活動の準備で、その場を離れていた職員のために、子供たちの意見で余分に焼き芋を作っていた。

火を扱う場面では、複数回参加している子供たちが、誰かに言われるでもなく、薪割りや、火の管理などを率先して行う姿が見られた。

11月4日（日）＜2日目＞

【基地づくり】



2日目の基地づくりは夏と同様の活動を行った。複数回参加の子供たちは、前回作ったものよりもいいものを作ろうと、効率よく活動を進めていた。初めて参加し子供たちは、手伝ったり、真似をしながら、自分の作りたい遊具を作って遊んでいた。最後に、それぞれが作ったものを順番に遊んで回る中で、お互いの工夫や苦勞を認め合う場面が見られた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・最初は、ゲームができなくなって、つまらなかったけど、釣りや外で遊ぶのも楽しいことがわかった。（子供）
- ・一泊二日は短かったです、すごく楽しかったし、ごはんもおいしかったです。（子供）

- ・ 子供が、これだけ外で遊べることに驚いた。(保護者)
- ・ ちゃんと子供をしかってくれてうれしかった。(保護者)
- 事業の成果
 - ・ 継続して参加している子供たちは、前回に比べ積極的に行動する場面が見られた。7月の回では、はじまりの会の直前までゲームをし続けて、自分でやめられなかった。11月の回では、移動中のバスの中でもゲームをせず、活動を楽しみに子供同士で話をしていて、講師の先生からは、「生活習慣がよくなった」、「周りの大人と関わる機会が増えた」ことを取り上げ、「自然体験活動の成果だと実感している」と話している。
 - ・ 7月の回では、食事を4回とも野外炊事にし、片づけ、配膳、調理補助、調理と少しずつお手伝いの内容を変化し、子供達に負担がかかりすぎないように配慮して進めていた。最後の焼きそばでは、参加者が中心となって作った焼きそばを職員にふるまうところまで、積極的に活動する姿が見られた。
- 事業の課題
 - ・ 課題を抱える青少年を対象とした事業のため、その対象者を募集することが難しい。
 - ・ 対象が課題を抱える青少年であるので、参加者都合でキャンセルになることが多く、講師を通じて、参加を促すのに苦慮している。